

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立杉の子特別支援学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿	一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校
(2) 育みたい資質・能力（育みたい児童生徒の姿） ありたい教職員の姿	○自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども ○自己肯定感と他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	○多様化、複雑化する社会に対応し、学び続ける姿勢を持った教職員 ○豊かな人権感覚を持ち、子どもの成長を保護者と喜び合える教職員 ○知的障がい教育および肢体不自由教育における高い専門性を有する教職員 ○計画的で柔軟かつ組織的な対応ができ、教育・福祉・医療等関係機関と連携した教育活動に取り組める教職員 ○教育公務員としての責務を自覚し、自らを律することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> 様々な体験的な学習や自分自身が活躍できる経験を通して、将来、自分らしく豊かに生活するために必要な力を、楽しく身に付けたいと望んでいる。</p> <p><保護者> 安全安心な学習環境の維持と児童生徒一人ひとりの特性に応じた教育の充実、卒業後の進路実現を期待する声が多い。</p> <p><地域・関係機関> 鈴鹿亀山地域の特別支援学校として、地域の特別支援教育の推進に向けたセンター的機能を充実させてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> いじめのない安全安心な学校運営と自立活動の充実、知的障がい教育の小中高の連続性を維持してほしい。</p> <p><地域の学校> 特別支援教育に係る情報提供や交流教育を進めてほしい。</p> <p><地域の関係機関(企業・福祉施設等)> 連携・協力するための情報提供をしてほしい。</p> <p><地域社会> 共生社会の実現に向けて、ともに活動できる機会を提供してほしい。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 規則正しい子どもの生活と子どもの心に寄り添う子育てに協力してほしい。</p> <p><地域の学校> 進学に係る情報提供や交流及び共同学習の受入と充実に協力してほしい。</p> <p><地域の関係機関(企業・福祉施設等)> 学校の教育活動を理解し、卒業後を見据えた連携を継続してほしい。</p> <p><地域社会> 学校の教育活動を理解し、児童生徒が活躍できる場を提供してほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価など	<p>(本校)</p> <ul style="list-style-type: none"> セラピストのような専門職を活用した取組は今後とも進めてほしい。 地域協働活動を充実させるためには、学校の取組や地域にしてほしいことを発信するとよい。 <p>(分校)</p> <ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育の実現をテーマに、学校管理の課題、学校教育の課題に向けた改善策を保護者、教職員に周知するとともに、改善に向けた取組を進める。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・石薬師高校生徒会とも連携し、校舎内のルールやマナーを明確にし、両校が一体となって課題解決に向け取組を進める。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○授業 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自立と社会参画に向けた、主体的な学びを実現する授業改善に取り組む。 ○キャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> ・双方の子どもが主体的に取り組める交流及び共同学習に取り組む。 ・高等部の作業学習において、「つきたい力」を明確にし、教職員の統一した指導観を整理し、取組を進める。 ○命を大切にす教育 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育における技能的側面の習得を強化し、児童生徒の実践行動できる力を育成する。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心な学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・安全な給食の提供に向けて、教職員の目視も含めた未然防止策に取り組む。 ・インクルーシブ教育を推進し、石薬師高等学校と連携した取組を進める。 ○信頼される学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携した、組織的対応や支援体制の強化に取り組む。 ・発達障がい支援にかかる教職員研修に取り組むとともに、指導体制の構築を図る。 ・教職員のコンプライアンス意識の向上に取り組み、不適切な対応を根絶する。 ○地域協働 <ul style="list-style-type: none"> ・ぬくたいフェスタへの主体的参加を検討する。 ○施設・教職員 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化する施設対応、トイレ不足、教室数の不足、教職員の確保に取り組む。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に則した教育課程に基づく授業実践に取り組み、教科学習を充実させる。 2 自立と社会参画に向けた教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に応じ、地域と関わる学習や作業学習、実習や職業体験学習を通して自己肯定感を高め、キャリア発達を促進させる。 3 命を大切にす教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育カリキュラムに基づいた人権教育を推進し、自己肯定感を育む教育と児童生徒のつながりを確かなものにする仲間づくりに取り組むとともに、技能的側面を強化した人権学習や葛藤のある人権学習を通して、実践行動力を育成する。 ・いじめを未然に防止するための児童生徒の主体的な活動の充実に取り組む。 ・発達段階に応じた性に関する指導、健康教育・食育の充実に取り組む
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 4 いじめや暴力のない学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人間関係をていねいに見つめ、いじめの認知に努めるとともに、いじめに対して迅速かつ組織的に対応する。 ・インクルーシブ教育の実現をめざし、石薬師高等学校と連携して取り組む。 5 安全安心な学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・バス運行会社と連携し、安全なスクールバス運行に取り組むとともに、自主通学生の通学路点検を実施し、児童生徒の登下校の安全の確保に取り組む。 ・医療的ケアを充実させ、医療的ケア児が安全安心な学校生活を送れるよう取り組む。 ・給食数増加と食形態の複雑化に対応した安全安心な給食の提供に取り組む。 ・災害備蓄品の整備や災害本部設置訓練、保護者引渡し訓練に取り組む、災害対策を充実させるとともに、危機管理マニュアルの整備・更新を行う。 6 センター的機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・本校・分校コーディネーターによるチーム支援や夏季公開講座等に取り組む、地域の特別支援教育を推進する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談、就学支援委員会等の機会における情報収集と関係機関と連携した支援体制の構築に取り組む。 <p>7 地域協働の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の行事や地域の人権フェスティバル等に参加し、地域啓発に取り組む。 ・進路渉外担当を中心とした地域との連携を促進し、学校課題の洗い出しに取り組む。 ・スクールボランティアによる協働体制作りに取り組む。 ・保護者、地域への情報発信を充実させ、開かれた学校づくりに取り組む。 <p>8 信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談体制と家庭支援を強化し、児童生徒保護者の思いに寄り添った指導に取り組む。 ・教職員の研修の機会を保障し、教職員の専門性の向上をめざす。 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づき、年間を通じたコンプライアンス研修、風通しの良い職場づくりに取り組み、不祥事を根絶する。 <p>9 働きやすい職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職がリーダーシップを発揮してワークシェアを推進し、業務の偏りの解消に努める。 <p>10 人材の確保と施設の老朽化対策、教室数確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保に取り組む教職員の負担軽減を図る。 ・施設の老朽化、教室数確保に取り組む
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	評価	備考
1 主体的に学ぶ子どもの育成	(1) 教科書を活用し、観点別学習状況の評価に基づく授業実践に取り組む。 【活動指標】 ・教科書を活用した授業の公開(教員相互による授業見学と研究協議) 年3回 ・指導略案を年1回作成して実施	・☆本を使った授業の公開3回 ・学部研修にて指導略案作成 13クラス中13クラス実施済み	
	(2) 令和8年度教育課程、年間計画の見直しを図る。 【活動指標】 ・教育課程検討委員会による見直し	1学期：定例 2学期：臨時 3学期：定例委員会を開催	
2 自立と社会参画に向けた教育の推進	(1) キャリア教育における小中高の系統的な取組を推進し、卒業後の進路実現を目指した指導の充実を図る。 【活動指標】 ・現場実習の実施 高2で1回、高3で2回 【成果指標】 ・高等部生徒アンケートに回答できる生徒の「卒業後のイメージを持つことができた」80%以上	達成 達成	

	<p>(2) 地域生活を体験し、児童生徒の自己実現を図る学習を充実させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望する児童生徒の居住地校交流を実施する。 ・小中学部における地域小中学校との共同及び交流学习に取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートにおいて「地域小中学校との共同及び交流学习において、お互いのかかわりを深める機会とすることができたか」80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・23名の児童生徒が居住地校交流を希望、21名実施済、2名2月に実施予定 ・井田川小交流 5/29(3年)実施 6/4(2年)実施 10/31(1年)実施 ・石薬師小交流 10/23実施 ・加佐登小交流 11/18実施 ・お互いのかかわりを深める機会とすることができた、ややできた100% 	
	<p>(3) 進路実現に向けて、保護者と連携した取組を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路相談会を実施する。 ・進路だよりによる情報発信 年3回以上 ・キャリア教育プログラムの保護者理解を促進する <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで「学校は児童生徒の進路実現に向けて保護者と連携して取り組んでいる 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加人数 6名 ・進路だより 4回発行 ・期末懇談会で説明した。 <p>アンケートは3学期に実施予定</p>	
<p>3 命を大切に する教育の 充実</p>	<p>(1) 児童生徒の発達段階に応じた主体的実践力を育む人権教育に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育カリキュラムに基づく授業実践 年3回 ・人権教育だよりを年3回発行 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートにおいて、「児童生徒の段階に応じた人権教育の取組ができたか」80%以上 	<p>人権週間 5/19～5/23 10/20～10/24 1/26～1/30 人権だより 7/7、12/12発行、 2月発行予定 2月末までにアンケート実施予定</p>	
	<p>(2) いじめや暴力を許さない態度を養う指導を充実させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会によるいじめを許さない取組 年2回 	<p>2回実施 (4月、11月)</p>	
	<p>(3) 発達段階に応じた性に関する指導、健康教育・食育を充実させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も他者も大切に性に関する指導実施 年1回 ・自ら健康を維持増進する態度を養う健康教育・食育の実施実施 年1回以上 <p>【成果指標】</p>	<p>11月以降各クラスで1回実施。食育においては日常生活の中で実施。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで、「児童生徒の日常生活に変化が見られた」60%以上 ・児童生徒アンケートで、「健康について楽しく学べた」80%以上 	達成	
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----	--

改善課題			
<p>1 教科書を活用した教科指導により、児童生徒の発達段階に応じた学習を行うことができた。今後は、教材の開発も含め、系統的な学習を行えるよう指導法の研修に取り組みたい。</p> <p>2 居住地校交流では打ち合わせにリストを活用し、円滑な情報共有ができた。引き続き、互いに有意義な交流となるよう協議を重ねたい。高等部における現場実習により、生徒の進路開拓と課題の整理、社会生活のイメージづくりに取り組み、卒業後の進路実現を果たした。</p> <p>3 日々の活動をとおして、自分が大切にされているということに気づき、他者を尊重するかかわりについて学習する機会をもった。児童生徒がお互いを思いやる姿や、交流活動における主体性を引き出すことができた。児童生徒を取り巻く実態を見据え、発達段階に応じた指導を充実させたい。</p>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	評価	備考
4 いじめや暴力のない学校づくり	<p>(1) いじめに対する迅速かつ組織的な対応を行い、いじめの早期解消に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを年3回実施する。 ・いじめが疑われる場合は、迅速かつ組織的に対応 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ重大事態0件 	<p>本校に関する「いじめの定義」についての議論を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回実施済(5・9・1月) ・0件 	◎
5 安全安心な学校づくり	<p>(1) 登下校の安全安心の確保に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス委員会による教職員、添乗員、運転手の連携強化 ・令和8年度のスクールバス運行計画の整備 ・スクールバス添乗員研修の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下車後のスクールバスの児童生徒降ろし忘れ0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回委員会の開催。9回開催済(1月末段階) ・運行計画進行中 ・エピペン、防災(引き渡し)研修の実施済。新入生に係る研修を予定。 ・0件 	
	<p>(2) 安全安心な給食の提供に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食献立委員会による給食調理業者との連携 必要に応じて <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食への異物混入、食物アレルギー関連事故0件を目指す ・食形態の多様化、給食数の増加への対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の献立委員会を開催(含む書面決議) 異物混入0(10月末時点) 食形態の検証実施 	
	<p>(3) 防災教育・防災対策を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ノートを活用した防災教育に取り組む ・実践的避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練実施済(火災2回、地震1回) 	

	(地震発生から、避難、救助、消火等、保護者引き渡し) ・スクールバス児童生徒引渡し訓練の実施 年2回	・引き渡し訓練 11月、1月に実施済	
	(4) 危機管理体制を充実させる。 【活動指標】 ・不審者対応訓練の実施 年1回 ・救命救急法講習会の実施 年1回 ・アレルギー対応訓練の実施 必要に応じて ・てんかん発作時の対応訓練(教員・添乗員)を実施 年1回以上 ・医療的ケア児の緊急対応訓練の実施 一人につき年1回以上 ・児童生徒失踪対応訓練の実施 年1回 【成果指標】 ・訓練結果を令和7年度危機管理マニュアルに反映 ・教職員アンケートにおいて、「不審者対応の仕方がよく分かった」80%以上 「救命救急についての理解が深まった80%以上	・5/8 実施済 ・6/4 実施済 該当者なし 随時実施 計9回 随時実施 計10回 ・9/9 実施済 ・随時追記 ・今後実施予定 ・100% ・89%	
6 センターの機能の充実	(1) 本校・分校特別支援教育コーディネーターによるチーム支援を強化する。 【活動指標】 ・地域の校・園の教育相談の充実 ・かがやき特別支援学校と連携した地域支援の充実	地域校・園 ・来校 81回 ・派遣 86回 ・研修会講師 6回 かがやき 2回	
	(2) 地域の特別支援教育の推進を図る。 【活動指標】 ・夏季公開講座の開催 年1回 ・教職員体験研修の開催 年2回 【成果指標】 ・夏季公開講座の参加者アンケートにおいて、「特別支援教育の理解が進んだ」80%以上 ・教職員体験研修の参加者アンケートにおいて、「特別支援教育の理解が進んだ」80%以上	・分校にて実施 ・2回実施 (9/16、11/6) ・100% ・体験研修 7名参加 100%	
7 地域協働の取組	(1) 地域活動に参加し、特別支援教育の理解啓発を促進する。 【活動指標】 ・ぬくたいフェスタへのポスター参加	缶バッジデザイン・ポスター応募にて参加	
	(2) 地域協働活動を推進し、学校活動を充実させる。 【活動指標】 ・スクールボランティアによる地域協働活動 年5回 (プール設置・解体、学習発表会舞台設置・解体、校外学習) 【成果指標】 ・参加者アンケートにおいて、「また機会があれば積極的に参加したい」もしくは「また参加してもよい」80%以上	スクールボランティアによる地域協働活動 4回 100%	

	<p>(3) 保護者・地域への情報発信により、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの発行 年3回 ・ホームページの更新 月1回以上 ・授業参観の実施 年3回⇒2回(修正) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「学校での学習の様子がよくわかった」80%以上 	<p>50回(1月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月、7月12月、3月(予定) ・今後実施予定 	
8 信頼される学校づくり	<p>(1) 問題行動への迅速かつ組織的な対応に取り組む</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会議を開催し、組織的に対応する。 ・外部関係者会議を開催し、支援体制強化に取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで、「学校は問題に対して迅速に対応している」80%以上 ・「学校は相談しやすい雰囲気がある」80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会議…28回 ・外部関係者支援会議…9回 ・今後実施予定 	
	<p>(2) 教職員の専門性の向上に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セラピストによる校内支援をとおして教員の専門性向上に取り組む。 ・発達障がい支援研修を実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修後の教職員アンケートで「校内研修で学んだことを日々の実践に活かすことができた」80%以上 ・個人研修(校外)年2講座以上の達成率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを講師とする専門性向上研修1回(4月) ・セラピスト支援PT:週20コマ ST:週12コマをそれぞれ支援にあたる。 ・分校支援として計7回訪問(PT4回, ST3回) ・専門性向上研修PT, ST各2回 ・発達障がい支援研修…分校主催で8/28実施(アンケート分校で一括) 	
	<p>(3) 教職員のコンプライアンス意識の向上に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止研修プログラムの実施 年10回 ・コンプライアンスミーティングの実施 年2回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉の子特別支援学校における不祥事0回 ・研修満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議時にコンプライアンス研修を実施(現在6回10月末) 	
9 働きやすい職場づくり	<p>(1) 年間を通じて職場環境や業務についての意見を反映し、風通しの良い職場づくり、働きやすい環境づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフサイトミーティングの開催 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回実施(7月22日) ・11月に満足度調査を実施 ・「校務へのやり 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員満足度調査の実施 年1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートにおいて、「校務へのやりがい、楽しんでいる」80%以上 ・「働きやすい環境づくりが進んでいる」80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「が、楽しんでいる」 84% ・「働きやすい職場である」 78% 	
	<p>(2) 学校安全衛生委員会による安全安心な職場環境づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全衛生委員会の開催 月1回(年12回) ・衛生管理者による職場巡視 週1回(年48回) ・産業医による職場巡視 2か月に1回(年6回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の実施回 10回(1月末) ・職場巡視実施 11回(1月末) ・産業医による職場巡視実施5回(1月末) 	
	<p>(3) 会議の効率化と定時対校日の確実な実施に向けて取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時対校日の設定 月1日 ・設定した日の定時退校できた割合 90%以上 ・ノー会議デーの実施 年25回 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が年360時間を超えるのべ職員数0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超えるのべ職員数0人 ・時間外在校等時間 月平均30時間以下 ・年次休暇取得日数 平均12日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日実施 12回(1月末) ・定時退校できた割合88%(1月末) ・年間予定におけるノー会議デーの設定8回 他会議を入れない設定日19日 ・時間外在校等時間が月45時間を超えるのべ職員数8人(1月末) ・時間外在校等時間平均30時間1人達席できず ・年次休暇取得日数 平均6.5日 	
10 人材確保と施設の老朽化対策、教室数確保	<p>(1) 人材確保と施設の老朽化対策、教室数確保に取り組む</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師の授業改善に取り組む ・職員による施設に関する意見集約を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤も授業を実施中 ・本校再編委員会中心に意見集約を実施中 	
改善課題			
<p>4 児童生徒間の問題行動に対して早期介入をすることができている。今後ともいじめの定義に基づき、児童生徒の人間関係をていねいに把握した対応を継続する。</p> <p>5 対応マニュアルを標準化したことで、円滑な対応が可能となった。訓練を繰り返すことでより精度の高い対応ができるようにしたい。実践的な避難訓練により、本部、各部署、連携等の課題を洗い出した。これらを整理し、より実効力のあるマニュアルの整備と訓練、被災体験を交えた防災教育を展開できるよう年間計画の整備を進めている。</p> <p>6 センターの機能として、鈴鹿市、亀山市の保幼小中における教育相談、就学支援委員会への参加を行った。相談件数は9月末現在で318件(前年度315件)。コーディネーターを複数にし、支援の充実を図っている。校内支援の必要性も高まっており、コーディネーター業務が過多となってきている。</p> <p>7 スクールボランティアの導入により教職員の負担軽減と地域への情報発信に取り組んだ。新たな連携先を発掘し、地域協働活動を充実させたい。</p>			

- 8 校内支援会議による児童生徒保護者対応の検討や校内セラピストによる校内支援をとおして自立活動の充実に取り組んだ。引き続き、教職員の専門性向上に取り組む。コンプライアンス研修については、職員会議後の時間を利用し、2月現在で11回開催し、教職員の意識向上に取り組んだ。
- 9 本校再編委員会活動により、施設設備備品等の整備、児童生徒数増への対応、組織の改善に取り組んでいる。
- 10 教職員の不足は解消できなかった。引き続き、地域の掘り起こしに取り組む。設備の老朽化による対応を予測した整備を行った。施設の老朽化による課題は大きく、引き続き県教委に改善を求めていく。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の活用は、指導内容の幅が広がり教育活動が充実すること、教員同士のコミュニケーションツールとして期待される。 ・子どもたちが胸を張れる人権教育を期待する。また、大人に向けての発信を強化すべきである。 ・防災対策について、引き続き取り組んでほしい。 ・教職員の負担軽減できるような取り組みが求められる。
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・著作本等教科書を活用した教科指導の充実に取り組む。 ・命を大切にする教育を充実させるとともに、大人向け啓発を推進する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時を想定した実践的な避難訓練を充実させるとともに、災害体験を踏まえた防災教育に取り組む。 ・教職員の働きやすい職場づくりを推進する。